

国土交通省

バリアフリー化推進功労者 大臣表彰式



【お問い合わせ先】 〒100-8918 東京都千代田区霞が関2丁目1番3号
国土交通省総合政策局安心生活政策課 TEL: 03-5253-8111 (代)

この冊子の作成にあたっては、「UD書体」「カラーUD」を使用しています。

平成26年1月



目次

■ プログラム	2
■ 国土交通省バリアフリー化推進功労者大臣表彰について	3
■ 講 評	4
秋山 哲男 委員 (日本福祉のまちづくり学会 会長)	
高橋 儀平 委員 (東洋大学 教授)	
三星 昭宏 委員 (関西福祉科学大学 客員教授)	
■ 受賞者事例報告	
・子育てタクシーのネットワーク化による子育て支援活動の全国展開	6
(一般社団法人全国子育てタクシー協会)	
・24時間歩行者専用化の実施とあわせた商店街のバリアフリー化	8
(札幌狸小路商店街振興組合・札幌市)	
・民間施設への子育て支援スペースの整備支援	10
(八王子市)	
・映像を通じたコミュニケーションのバリアフリー化	12
(阪急電鉄株式会社)	
・バリアフリースター及び企業ネットワーク活動の推進	14
(株式会社昭和観光社・バリアフリー旅行ネットワーク)	

プログラム

- 表彰状授与 14:00～14:30
- 選考委員からの講評 14:45～15:05
- 受賞事例報告 ～受賞者より～ 15:05～16:30

日本福祉のまちづくり学会 会長 秋山 哲男 氏
東洋大学 教授 高橋 儀平 氏
関西福祉科学大学 客員教授 三星 昭宏 氏

一般社団法人全国子育てタクシー協会

子育て支援団体と連携して、乳幼児を伴った荷物の多い外出時のサポートや子どもだけの送迎でも安心して任せられる「子育てタクシー」をブランドとして構築し、各地域の地方公共団体や子育て支援団体と連携しながら全国的な普及啓蒙に取り組んだ。

札幌狸小路商店街振興組合・札幌市

「商店街」という各店舗の同意を得ることが困難な地域において、道路横断勾配（道路中央から店舗側への勾配）の緩和、各店舗出入口における段差の解消、滑りにくい路面仕上げへの変更、視覚障害者誘導用ブロックの敷設等のバリアフリー化に係る整備を行うとともに、高齢者、障害者等を含む歩行者が最優先との考えのもと、商店街における車両通行のルールを組合が自主的に定め、24時間歩行者専用化を実現した。バリアフリー化に係る整備と交通ルールの制定を一体的に取り組んだ。

八王子市

「子育てしやすいまちナンバーワン」を目指し、親子で安心して外出できる環境を整備するため、民間事業者の協力を得て、授乳や調乳・おむつ換えができるスペースである「赤ちゃん・ふらっと」の設置を支援する事業に取り組んでおり、子どもと一緒に安心して外出ができる環境整備という新しいまちづくり課題に対し、独自の補助制度を創設するなど官民協働の子育てしやすいバリアフリーのまちづくりに取り組んだ。

阪急電鉄株式会社

多様な駅利用者のニーズに対応するため、テレビ電話機能付き「駅係員よびだしインターホン」を全駅に設置し、駅係員の対応によるきめ細かい案内サービスの提供を実現することにより、コミュニケーションのバリアフリー化に取り組んだ。

株式会社昭和観光社・バリアフリー旅行ネットワーク

障害者や要介護高齢者が参加する国内旅行分野において、バリアフリーツアーやヘルパー養成講座実習ツアーを積極的に実施するとともに、旅行会社、宿泊施設等を会員とする「バリアフリー旅行ネットワーク」を設立し、研修会や意見交換会等の実施を通じて、会員等のバリアフリー化の推進に取り組んだ。

国土交通省バリアフリー化推進功労者大臣表彰について

国土交通省では、平成18年12月施行の「高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律（バリアフリー法）」の趣旨を踏まえ、公共交通機関、建築物、道路などの総合的かつ一体的なバリアフリー化を進めるとともに、国民のバリアフリーに関する意識啓発にもより一層努めることとしております。

このため、国土交通分野におけるバリアフリー化の推進に多大な貢献が認められた個人又は団体を表彰し、優れた取組みについて広く普及・奨励することを目的として、平成19年度に、国土交通省バリアフリー化推進功労者大臣表彰制度を創設しました。

第7回となる今回も多く優れた取組みを推薦いただき、なかでも特に優れた取組みを表彰することとなりました。今後とも、この制度により優れた取組みを普及・奨励することによって、国土交通分野におけるバリアフリー化に向けた取組みがより一層推進することを期待しております。

表彰対象

バリアフリー化の推進に向けて国土交通分野における多大な貢献が認められ、かつ顕著な功績又は功労のあった個人又は団体です。

選定方法

国土交通省バリアフリー化推進功労者大臣表彰選考委員会において、本省内部部局及び地方局等から推薦のあった候補案件の中から表彰対象を選考し、最終的に国土交通大臣が決定します。

国土交通省バリアフリー化推進功労者大臣表彰選考委員会

国土交通省バリアフリー化推進功労者大臣表彰選考委員会の委員は、以下のとおりです。

秋山 哲男 日本福祉のまちづくり学会 会長
高橋 儀平 東洋大学 教授
三星 昭宏 関西福祉科学大学 客員教授

第7回受賞者の決定

21件の候補案件の中から選考委員会の審査を経て、5件の表彰対象を決定しました。

第7回となる今年度の表彰においては、全国各地から21件のご推薦をいただきました。全国において、着実にバリアフリー化への取組みが展開されつつあることがうかがえます。

全21件は、ハード面（施設整備等）からソフト面（支援活動等）に渡る幅広い取組みをご推薦いただきました。今年の傾向としては、ソフト面での取組みが比較的多く推薦されています。

個々の推薦案件を見ますと、特徴的なものとして、子育てを支援する地方公共団体や業界団体の取組みが挙げられます。また、商店街などこれまで事例があまりなかった分野の取組みも見られます。他にも、例年と同じく、施設等のバリアフリー化やバリアフリー旅行、心のバリアフリーなどの取組みも見られます。

このように、バリアフリー化の取組みが幅広い分野へ広がってきていることが感じられました。

表彰者の選定に当たっては、事業の独創性、波及性の他、高齢者・障害者等の当事者参加が確実に図られていること、地道な取組みであっても根気強く継続的に行っていること、また様々



秋山 哲男 委員
(日本福祉のまちづくり学会 会長)

な主体間の意見調整など困難な事業をやり遂げたことなどについて考慮の上、評価しました。

「一般社団法人 全国子育てタクシー協会」は、各地の地方公共団体や子育て支援団体と連携して、乳幼児連れの荷物の多い外出者（あるいは保護者）のサポートや子どもだけでも安心して乗車できる「子育てタクシー」制度をブランドとして構築し、協会会員のみならず幅広く全国的に普及啓発活動を図っている点を高く評価し、表彰対象としました。

「札幌狸小路商店街振興組合・札幌市」は、高齢者、障害者等を含む歩行者が最優先との考えのもと、商店街における車両通行のルールを自主的に定め、24時間歩行者専用化を実現しました。また、道路のバリアフリー化として、道路横断勾配（道路中央から店舗側への勾配）の緩和、各店舗出入口における段差の解消、滑りにくい路面仕上げへの変更、視覚障害者誘導用ブロックの敷設等のバリアフリー化に係る整備を行いました。これらの交通ルールの制定とバリアフリー化に係る整備を一体的に取り組んだ点を高く評価し、表彰対象としました。



選考風景

「八王子市」は、「子育てしやすいまちナンバーワン」を目指し、親子で安心して外出できる環境を整備するため、民間事業者の協力を得て、授乳や調乳・おむつ換えができるスペースである「赤ちゃん・ふらっと」の設置を支援する事業に取り組んでおり、子どもと一緒に安心して外出ができる環境整備という新しいまちづくり課題に対し、独自の補助制度を創設するなど官民協働の子育てしやすいバリアフリーのまちづくりに取り組んだ点を高く評価し、表彰対象としました。

「阪急電鉄株式会社」は、要員効率化の厳しい環境下においても、多様な駅利用者のニーズに対応するため、テレビ電話機能付き「駅係員よびだしインターホン」を全駅に設置し、駅係員の対応によるきめ細かい案内サービスの提供を実現しており、コミュニケーションのバリアフリー化を図っています。受賞者のこの取組みは、単に機器や設備整備を行うに留まらない、人による対応を質的に充実させた他の模範となる取組みであり、受賞者がこれまで実施してきた数多くのバリアフリー化の先導的な取組み経験に



三星 昭宏 委員
(関西福祉科学大学 客員教授)

基づく先進的な取組みである点を高く評価し、表彰対象としました。

「株式会社昭和観光社・バリアフリー旅行ネットワーク」は、障害者や要介護高齢者が参加する国内旅行分野において、バリアフリーツアーやヘルパー養成講座実習ツアーを積極的に実施するとともに、旅行会社、宿泊施設等を会員とする「バリアフリー旅行ネットワーク」を設立し、研修会や意見交換会等の実施を通じて、会員等のバリアフリー化の推進に貢献したことを高く評価し、表彰対象としました。

今回ご推薦いただいたものには、それぞれの特徴ある取組みも多く、今回受賞とならなかったものにも、優れた取組みがありました。

受賞された方々も、また、残念ながら受賞とはならなかった方々も、引き続きこのようなすばらしい取組みを継続的に進めていただくことを期待するとともに、それを通じて我が国の生活環境の一層のバリアフリー化が進展することを、選考委員一同、祈念しております。



高橋 儀平 委員
(東洋大学 教授)

<選考委員一同>

講評

受賞者は、子育て支援団体と連携して、乳幼児を伴った荷物の多い外出時のサポートや子どもだけでの送迎でも安心して任せられる「子育てタクシー」をブランドとして構築し、各地域の地方公共団体や子育て支援団体と連携しながら全国的に普及啓蒙を図っている点を高く評価し、表彰することとした。

受賞者の取組み

取組みの概要

全国子育てタクシー協会は、地域で子育て支援の取組みを行うタクシー事業者を会員とする全国レベルの団体として、「子育てドライバー養成講座」や「子育てタクシー補償制度」を立ち上げるとともに、地域の子育て支援団体と協働して、子育て家庭が安心して利用できるタクシーの普及を図っている。



運転前の安全確認



ベビーカー開閉のお手伝い

子育てドライバー養成講座

チャイルドシート、ベビーカーの操作や妊産婦体験などの「実技」と子育てタクシーが求められる背景、子育てタクシーとしての心がけ等の「座学」を組み合わせた講習や小児救急看護認定看護師会の全面協力による小児の応急手当などの講習により、子育てタクシードライバーを養成している。また、上記の養成講座と合わせて半日の保育実習を終了したドライバーのみ「子育てタクシー」としての運転が認められている。



子育てタクシードライバー登録証



救急救命講座



ママ体験講座



子育てタクシー車両

子育てタクシー補償

子育てタクシー補償は、子育てタクシーのサービス内容、特に子どもだけを送迎する際になどに配慮し、通常の自動車保険ではカバーできない傷害事故、所持物損壊、人格権侵害等を対象としており、全国子育てタクシー協会では、協会に加盟している事業者に「子育てタクシー補償」に、登録ドライバーを加入させることを義務付けている。

子育て支援団体との連携

全国子育てタクシー協会では、地域のタクシー事業者と子育て支援団体とのコーディネートを行い、その地域のニーズや子育てに関する情報を共有している。また、年2回の研修会において、子育て中の利用者、子育て支援団体、子育てタクシードライバーによるパネルディスカッションを実施するなど子育てタクシーのサービス向上を図っている。



子育てタクシー出発式



子育て支援施設のイベントに参加したタクシードライバー

全国への展開

子育てタクシー事業の導入に積極的なタクシー事業者や地方公共団体を中心に全国各地において、子育てタクシードライバー養成講座を開催し、加盟事業者や登録ドライバーを拡げており、平成16年9月に1社ドライバー5人でスタートした子育てタクシーは、平成25年10月現在26都道府県の145社ドライバー1,630人にまで拡大している。

◎ 今後期待される取組み

今後も、加盟事業者、子育て支援団体、地方公共団体が一体となったネットワークの拡大が期待される。

喜びの声



一般社団法人全国子育てタクシー協会
会長 及川 孝 氏

【コメント】

今回は大変名誉な賞をいただき、協会員一同大変感激していると共に、協働・ご支援いただいた方々と一緒に喜びを分かち合いたい気持ちで一杯です。
これまで手作りできずと広げてきた活動が評価され、今後もがんばれと後押しされた思いがいたします。
子育て世代の利用者の方が安全で安心して乗れるタクシーを目指して、また地域の子育て環境をよりよくするためタクシー業界全体で取り組むべく今後もがんばって活動していきたい。

【受賞者】

一般社団法人 全国子育てタクシー協会

【連絡先】

京都市南区上鳥羽塔ノ本 30-2

【活動等の経緯】

- 平成16年6月
子育て支援団体NPO法人わははねっと（香川県）より「子育てタクシー」の企画が、花園タクシー「香川県」に提案される。同年9月に1社にて運行開始。
- 平成17年
香川県内8社が「子育てタクシー」運行を開始する。
- 平成18年6月
子育てタクシー協会設立 38社加盟
初代会長 鎌野 実知子（花園タクシー）
- 平成19年
臨時総会 2代目会長 内田 輝美
「湯江タクシー：長崎」就任
- 平成21年7月
「第六回ハイ・サービス日本300選」受賞
- 平成22年10月
山形県が「子育てタクシー」を行政主導により制度として導入、運行開始
- 平成23年4月
一般社団法人 全国子育てタクシー協会設立
- 平成23年10月
秋田県・岐阜県にて行政主導により制度として導入し、運行開始
- 平成24年6月
定時総会 現会長 及川 孝（フタバタクシー：仙台）就任、26都道府県、135社加入、登録ドライバー数1,450名
- 平成25年10月現在
26都道府県、145社加入、登録ドライバー1,630名となる。

【Web - URL】

<http://kosodate-taxi.com>

札幌狸小路商店街振興組合・札幌市 24時間歩行者専用化の実施とあわせた商店街

のバリアフリー化

講評

受賞者は、「商店街」という各店舗の同意を得ることが困難な地域において、道路横断勾配（道路中央から店舗側への勾配）の緩和、各店舗出入口における段差の解消、滑りにくい路面仕上げへの変更、視覚障害者誘導用ブロックの敷設等のバリアフリー化に係る整備を行うとともに、高齢者、障害者等を含む歩行者が最優先との考えのもと、商店街における車両通行のルールを組合が自主的に定め、24時間歩行者専用化を実現した。バリアフリー化に係る整備と交通ルールの制定を一体的に取り組んだ点を高く評価し、表彰することとした。

受賞者の取組み

取組みの概要

札幌狸小路商店街振興組合と札幌市は、「新・札幌市バリアフリー基本構想」に基づく道路のバリアフリー化に係る整備を行うにあたり、「狸小路商店街道路環境整備検討協議会」を立ち上げ、度重なる協議や社会実験を行うとともに、計画・設計・施工の各段階において、積極的に高齢者や障害者団体からの意見を取り入れ整備を行った。

また、視覚障害者誘導用ブロックの道路中央敷設や道路横断勾配の緩和等のハード面の整備だけではなく、24時間歩行者専用化の交通規制を実現する上で、通行許可を得た荷捌車等の車両通行のルールを自主的に制定し、歩行者の安全の確保を図るとともに、当該ルールの継続的な運用に取り組んでいる。



バリアフリー化整備前の状況



バリアフリー化整備後の状況



バリアフリーチェック（計画、設計、施工段階）の様子



社会実験の様子

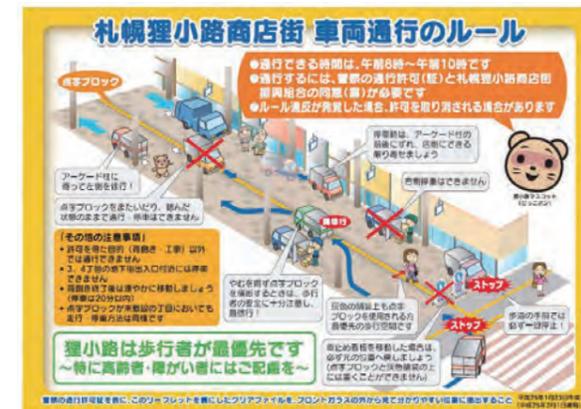
● 道路横断勾配の緩和や舗装面の改良

舗装面のかさ上げ等を行い、道路中央から店舗側への勾配の緩和や各店舗の出入口における移動の円滑化にも積極的に取り組んでいる。また舗装面の仕上げを滑りにくく目地の少ない材料とするなど、より一層の移動の円滑化を図っている。



● 視覚障害者誘導用ブロックの敷設と24時間歩行者専用化の実現

道路幅員が狭く歩道の設置が困難なアーケード街において、視覚障害者誘導用ブロックを道路中央へ敷設するため、障害当事者等の参加する度重なる協議や社会実験を行った上で、通行許可を得た荷捌車等の車両通行のルールを商店街が自主的に制定し、24時間歩行者専用化を実現させるとともに、敷設箇所周辺1.5m幅の配色を変えることで歩行空間を明確にし、歩行者の安全を確保している。



◎ 今後期待される取組み

高齢者・障害者等が日常生活において利用する商店街において、バリアフリー化は重要な課題である。札幌狸小路商店街における取組みは、バリアフリー化に係るハード整備と交通ルールの制定とを一体的に取り組んだ先進的な事例として参考となるものであり、他の商店街等へ広がることを期待される。

喜びの声



札幌狸小路商店街振興組合
理事長
菊池 恒 氏



【コメント】

この度は、大変名誉ある賞をいただきまして、心より感謝申し上げます。

この受賞を励みに、今後も、たくさんのお客様に安心して足を運んでいただき、そして楽しく買い物をしながら素敵な時間を過ごしていただける魅力あふれる商店街を目指して努力して参ります。

【受賞者】 札幌狸小路商店街振興組合

【連絡先】 北海道札幌市中央区南2条西2丁目13番地
TEL 011-241-5125

【活動等の経緯】

- 平成23年7月 狸小路商店街道路環境整備検討協議会設立
- 平成24年1月 札幌狸小路商店街振興組合臨時総会の議決により、24時間（終日）歩行者専用化の要望提出
- 平成24年6月 社会実験の実施
- 平成25年1月 「札幌狸小路商店街 車両通行のルール」を制定
- 平成25年2月 歩行者専用交通規制が24時間化

【Web-URL】

<http://www.tanukikoji.or.jp/>



札幌市
札幌市長
上田 文雄 氏



【コメント】

今回の受賞は、「行政」のハード整備だけでは困難な課題を、「商店街」の自主的なルール策定との「連携」によって解決した点が高く評価されたものであり、商店街と共に受賞できたことを大変喜ばしく思います。関係する皆様には厚く御礼申し上げます。

【受賞者】 札幌市

【連絡先】 北海道札幌市中央区北1条西2丁目
TEL 011-211-2617（道路課）

【活動等の経緯】

- 平成15年4月 「札幌市交通バリアフリー基本構想」策定
- 平成21年3月 「新・札幌市バリアフリー基本構想」策定
- 平成23年7月、平成24年2月、11月 「バリアフリーチェック」実施
- 平成24年8月～平成25年8月 道路バリアフリー工事

【Web-URL】

<http://www.city.sapporo.jp/>

講評

受賞者は、「子育てしやすいまちナンバーワン」を目指し、親子で安心して外出できる環境を整備するため、民間事業者の協力を得て、授乳や調乳・おむつ換えができるスペースである「赤ちゃん・ふらっと」の設置を支援する事業に取り組んでおり、子どもと一緒に安心して外出ができる環境整備という新しいまちづくり課題に対し、独自の補助制度を創設するなど官民協働の子育てしやすいバリアフリーのまちづくりに取り組んだ点を高く評価し、表彰することとした。

受賞者の取組み

取組みの概要

八王子市は、「子育てしやすいまちナンバーワン」を目指し、市の「こども育成計画」に基づいて子育て支援の充実を図っており、親子で安心して外出できる環境を整備するため、以下の取組みを進めた。

「赤ちゃん・ふらっと設置促進事業」の実施

市が「こども育成計画」を策定する際に「子どもとの外出の際に困ったこと」についての市民アンケートを実施したところ、「トイレがおむつ替えや親子での利用に配慮されていないこと」という回答が全体の三割を超えた。

そこで、親子で安心して外出できる環境を整備するため、民間事業者の協力を得て、授乳や調乳・おむつ換えができるスペースである「赤ちゃん・ふらっと」の設置を支援する事業を平成 21 年度から開始した。

本事業は、民間事業者の一部費用負担が発生することや、スペースの確保、維持管理が必要なことから地域貢献の要素が強く、事業への理解と協力が欠かせないため、担当職員が市民の設置ニーズを基に、直接事業者に設置についての働きかけを行い、理解を得た上で設置に協力してもらっている。

民間事業者が「赤ちゃん・ふらっと」を設置する際にかかる費用の9/10（上限 100 万円）を補助することで設置を促進しており、平成 25 年 12 月までに 16 の民間事業者を支援、独自に設置した民間施設 23 か所・公共施設 35 か所と合わせ、74 施設に設置されている。

補助制度を活用して「赤ちゃん・ふらっと」を設置した施設の紹介

京王八王子ショッピングセンター

京王八王子駅の駅ビル6階のエレベーター横に新設。

子育て世帯の利用も多く、授乳室のニーズが高かった。設置により利用者の利便性が向上。



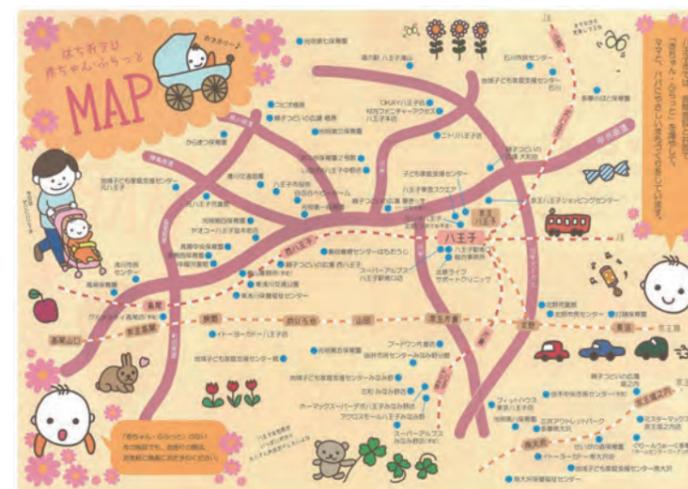
【京王八王子ショッピングセンターから】

- ・ダストボックスに捨てられているおむつのごみは、平日だと 15 個前後。
- ・設置前はよく「授乳室はないの？」と聞かれたが、最近は問い合わせがなくなった。よく利用されている。



「赤ちゃん・ふらっと」の認知度アップ・利用促進

「赤ちゃん・ふらっと」をより多くの子育て中の市民に周知するため、統一したかわいいデザインによるポスターやリーフレットを作成しており、子育て世帯が気軽に外出できる環境を整備することで、育児ストレスの軽減にも寄与するなど、官民協働で子育てしやすいバリアフリーのまちづくりの推進に取り組んでいる。



◎ 今後期待される取組み

今後、日常生活圏にある小学校や多様な小規模公共施設等の整備を推進するとともに、行政主導から民間主導に移行していくことが期待される。



赤ちゃん・ふらっと
シンボルマーク



八王子市中央図書館の赤ちゃん・ふらっと

喜びの声



八王子市
八王子市長
石森 孝志 氏

【コメント】

この度は、本市の取組みに高い評価をいただき、大変うれしく思っております。

また、これまでご協力いただいた「赤ちゃん・ふらっと」設置事業者のみなさまに、心から御礼申し上げます。

少子化や核家族化の進展により、安心して子育てできる環境づくりは、急務となっており、本市では、子育て世帯が気軽に外出できる環境を整えることで、育児中の負担感の軽減に寄与したいと、事業者の方々と連携して「赤ちゃん・ふらっと」の設置を促進しているところです。

今後も、一人でも多くの子育て中の市民のみなさまに「八王子で子育てをしてよかった」と思っただけのよう、子育てにやさしいまちづくりに取り組んでまいります。

【受賞者】

八王子市

【連絡先】

八王子市元本郷町 3-24-1
TEL 042-620-7391（子どものしあわせ課）

【活動等の経緯】

平成 20 年
東京都が赤ちゃん・ふらっと登録制度を開始

平成 21 年
八王子市が赤ちゃん・ふらっと設置事業者への補助制度を創設
民間事業者へ設置の働きかけによる設置促進がスタート

平成 22 年～
リーフレット・ポスターにより、市民への啓発を充実

平成 25 年 12 月
設置促進により、八王子市内 74 か所に設置。（うち、民間事業者への補助事業により設置されたものが 16 か所）

【Web - URL】

<http://www.city.hachioji.tokyo.jp/>

講評

受賞者は、要員効率化の厳しい環境下においても、多様な駅利用者のニーズに対応するため、テレビ電話機能付き「駅係員よびだしインターホン」を全駅に設置し、駅係員の対応によるきめ細かい案内サービスの提供を実現しており、コミュニケーションのバリアフリー化を図っている。受賞者のこの取組みは、単に機器や設備整備を行うに留まらない、人による対応を質的に充実させた他の模範となる取組みであり、受賞者がこれまで実施してきた数多くのバリアフリー化の先導的な取組み経験に基づく先進的な取組みである点を高く評価し、表彰することとした。

受賞者の取組み

■ 取組みの概要

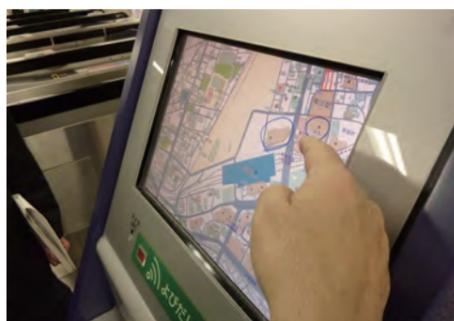
阪急電鉄株式会社では、主要駅からの他駅監視システムの導入と併せて、テレビ電話機能付きの「駅係員よびだしインターホン」を全駅（86駅）に設置することにより、多様な利用者ニーズに対応したきめ細かい案内サービスを提供する他、主要駅改札口付近への「ごあんないカウンター」の設置や、駅係員のスキルアップのための教育訓練の実施、サービス介助士資格の取得推進等、人による対応の質的充実によるコミュニケーションのバリアフリー化を図っている。

● テレビ電話機能付き「駅係員よびだしインターホン」の設置

テレビ電話機能付き「駅係員よびだしインターホン」には、モニター画面とカメラが備えられており、利用者と駅係員がお互いの表情・様子を確認しながら対話が行える仕組みとなっている。呼び出しボタンを押すだけの簡単な操作のみでの利用を可能としている他、聴覚障害者に対しては筆談でのコミュニケーションを可能とするなど、利用者目線に立った機能の充実が図られている。



駅係員よびだしインターホン



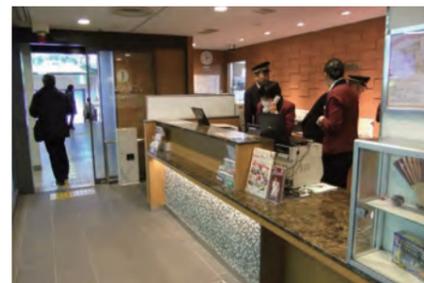
地図を活用した案内の様子



筆談対応の様子

● 主要駅「ごあんないカウンター」の設置

サービス拠点機能の強化のため、主要駅の改札口付近に「ごあんないカウンター」を設置し、多様な利用者に対するサービス向上を図っている。



ごあんないカウンター

● 駅係員のスキルアップのための取組み

利用者に安心して駅を利用してもらうため、駅係員のスキルアップのための継続的な教育訓練を実施している他、高齢者・障害者等のサポートを行う際に必要な介助技術や知識の習得を図る一環として「サービス介助士」資格取得を推進するなど、利用者サービスの向上を図っている。



駅係員への教育訓練



駅係員による介助の様子

◎ 今後期待される取組み

今後、実地検証を行い、機能、接遇、付加サービス等のスパイラルアップを図るとともに、他社との連携、協働を図ることが期待される。

喜びの声



阪急電鉄株式会社

代表取締役社長 角 和夫 氏

【コメント】

この度は、大変名誉ある賞をいただき、心より感謝申し上げます。

弊社は、100年以上にわたり、沿線のまちづくりや人々の暮らしに関わる様々なサービスを提供し、お客様や地域の方々と共に歩んでまいりました。

弊社では、お客様に「安心・快適」そして「夢・感動」をお届けするという経営理念にもとづき、鉄道をより安心・快適にご利用いただくことをめざして様々な施策を行っておりますが、なかでもバリアフリーの取組みは最も大切な要素の一つであると考えております。

これからも、この受賞を励みとして、お客様に「住みたい沿線」、「利用したい鉄道」と思ってもらえるよう努力してまいります。

【受賞者】

阪急電鉄株式会社

【連絡先】

大阪府大阪市北区芝田1-16-1
TEL 06-6373-5039

【活動等の経緯】

昭和48年 誘導警告ブロックの設置開始（昭和55年全駅設置完了）。以降、点字運賃表、盲導鈴、車いす用通路、車いす用トイレを昭和57年までに全駅に整備。

昭和54年 園田駅にエレベータを設置、以降現在まで、全86駅中66駅177基を整備。

平成10年 阪神大震災により高架部分が全壊した伊丹駅を、交通エコロジー・モビリティ財団の推進するアメニティターミナル整備事業のモデル駅として再建。

平成23年 全駅にテレビ電話機能付きインターホン「駅係員よびだしインターホン」を整備。

平成24年 梅田駅に4カ国語対応の案内所「阪急ツーリストセンター大阪・梅田」を開設。

平成25年 河原町駅に4カ国語対応の案内所「阪急京都観光案内書」を開設。

【Web-URL】

<http://www.hankyu-hanshin.co.jp/>

株式会社昭和観光社・バリアフリー旅行ネットワーク バリアフリースーツアー及び企業ネットワーク活動

の推進

講評

受賞者は、障害者や要介護高齢者が参加する国内旅行分野において、バリアフリースーツアーやヘルパー養成講座実習ツアーを積極的に実施するとともに、旅行会社、宿泊施設等を会員とする「バリアフリー旅行ネットワーク」を設立し、研修会や意見交換会等の実施を通じて、会員等のバリアフリー化の推進に貢献していることを高く評価し、表彰することとした。

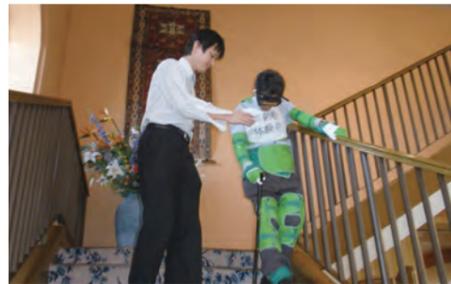
受賞者の取組み

■ 取組みの概要

株式会社昭和観光社は、身体障害者や要介護者等を対象としたバリアフリースーツアーである「心の翼～杖・車椅子の方へやさしい旅」を20年にわたり催行するとともに、旅行サポーターが介助・介護を行う「心の翼～トラベルヘルパー養成講座実習ツアー」を企画することで人材の育成を行っている。また、平成17年3月に、誰もが安心して外出、国内旅行が楽しめるような社会と一緒に築くことを目的とした「バリアフリー旅行ネットワーク」を設立し、バリアフリースーツアーに係る旅行会社、宿泊施設、運輸業界をはじめとした様々な業種間のコーディネーターとしての役割を果たしている。

● バリアフリー旅行ネットワーク

バリアフリー旅行ネットワークでは、全国各地での研修会や勉強会において、高齢者疑似体験、観光地を活用した車椅子体験等の実施やサービス介助士2級の取得を促すことで関係者のスキルアップを図るとともに、意見交換会を開催し、新たに取り組むべき事業や改善すべき課題を共有している。また、サポートヘルパーの有償連携や旅行先のバリアフリー情報の把握、ビジネス連携等ネットワークを拡大することでバリアフリースーツアーの普及促進に努めている。



高齢者疑似体験



研修会



研修会食事ケア

● 心の翼～バリアフリースーツアー～

身体障害者や要介護者等をはじめとする様々な移動制約者が利用できるバリアフリースーツアーを企画し、今まで旅行に行くことができなかった人の生きがいを提供している。また、旅行への参加によって、重度化予防・生活QOLの向上を図り、旅行後には、本人の生活目標をケアマネとリハビリ担当で考え、本人・家族とその目標を共有することでリハビリプログラムとしての役割も担っており、各地のケアマネ協会との連携によってこの取組みの普及を図っている。



喜びの笑顔



リハビリ・ケアマネ打ち合わせ

● バリアフリースーツアーに係るヘルパーの養成

身体障害者や要介護者等のトラベルヘルパーの役割を、旅行サポーターがノウハウを学びながら代替する『心の翼トラベルヘルパー養成講座実習ツアー』を企画し、バリアフリースーツアーに携わる人材の育成を行ってきた。平成25年度には、『ユニバーサル観光まちづくりサポートパック』、『(ケアマネ・リハビリ向け)意欲を上げ生活QOL実習サポートパック』、『(学生向け)意欲を上げ生活QOL実習サポートパック』を企画し、人材育成の場や対象の更なる拡大を図ることで、バリアフリースーツアーに係るネットワークを拡げている。



旅行サポーター

◎ 今後期待される取組み

現在構築されている様々なネットワークに加え、NPOや障害当事者とのネットワークの構築によってバリアフリースーツアーの質をさらに向上させることが期待される。

喜びの声



株式会社昭和観光社
代表取締役
平森 良典 氏



【コメント】

この度の受賞、大変名誉に感じ、関係者・お客様と共に喜んでおります。旅行を支えて下さる方々の支援・ご協力に対し、厚くお礼申し上げます。当法人が進めていることは、「旅行を諦めている方の旅行実現」と「家族介護者のリフレッシュ」だけでなく「旅行サポーター（多資格者）の即役に立つ感動体験」を通じ、支えあい、生きがいを感じ、重度化予防とQOL（生活の質）向上に繋がる人を増やすことです。今後さらに観光・福祉・医療の価値共有をして連携を深めてまいります。

【受賞者】

株式会社昭和観光社

【連絡先】

広島県東広島市黒瀬町大多田828番2号
TEL 0823-81-0510

【活動等の経緯】

平成5年 福祉部門「心の翼（バリアフリースーツアー）」設立
平成20年 ツアーオペザイヤー2008受賞
24年ツアーグランプリ2012受賞
平成21・23年度 日本旅行業協会のセミナー講師
（高齢者・車椅子の方々へ旅行の受入を学ぶ）
平成17～25年度 バリアフリー旅行ネットワーク（全国組織105社）
会長
平成23～25年度 観光庁ユニバーサルツーリズム促進検討会委員

【Web-URL】 <http://www.enjoy.ne.jp/showa-ts/>（株昭和観光社）



バリアフリー旅行ネットワーク
会長
平森 良典 氏



【コメント】

この度の受賞を大変光栄に思います。諸先輩の教え、会員の皆様の活動に対し、心より感謝申し上げます。皆様と共に、「誰もが安心して旅行が楽しめる社会づくり」のコーディネート活動をしてまいりました。今後「見えている未来の課題に手を打つ実践」に向け教育プログラムや研修実習などで、観光・福祉・医療の連携を視野に入れ、プラットフォームを発展させてまいります。

【受賞者】

バリアフリー旅行ネットワーク

【連絡先】

京都府京都市中京区西大路太子道西入ル
TEL 075-812-1466

【活動等の経緯】

平成16年7月 設立準備 会の活動理念・活動計画と設立へ
平成17年3月 バリアフリー旅行ネットワーク（全国組織）設立
会長 現在（105会員）
平成17～25年度 全国の研修会・意見交換会を開催（全国研修会11回約300名）
各地域ブロックの研修会・意見交換会を開催（56回約700名）
平成23～24年度 全国旅行業協会機関誌 バリアフリー旅行のノウハウ連載執筆

平成23～25年度 観光庁ユニバーサルツーリズム促進検討会委員

【Web-URL】 <http://www.bari-net.jp>（バリアフリー旅行ネットワーク）

